

これまで実践した研究授業の紹介をします。

【国語科 2年生】

竹内由美教諭による提案授業「手紙を書いてこうりゅうかいにつなげよう」が行われました。手紙の書き方や言葉の使い方などに気を付けて書いたり、文章を読み返して自分の伝えたいことを相手に伝えるように分かり易く書こうとしたりする子供の姿が見られた授業でした。

今後、このような言語活動の取組を重ねていくことが、言葉への自覚を高めることにつながっていくと考えます。



国語科の授業の様子

【国語科（書写）1年生】

三谷早苗教諭による提案授業「かんじのかきかた ～とめ・はらい・はね～」が行われました。自分の課題やめあて、文字の整え方が分かるようになると、子供たちは、「分かった」「できた」という喜びや達成感を言葉や表情に表していました。今後も硬筆書写において、水書用筆の特性を生かした授業づくりを重ねます。そして、「点画」の書き方を体感することによって、安定した書写力の定着につなげていきます。



国語科（書写）の授業の様子



小笠原 拓先生（左）、住川 英明先生（右）によるご講話

鳥取大学から小笠原 拓先生と住川 英明先生をお迎えして、研究会を開催しました。国語科と国語科（書写）の授業でどんなプロセスが子供たちにとって必要となるのか、どんな視点をもって授業づくりや実践を重ねていくのかについて具体的なご示唆を頂きました。「相手意識」の相互作用がさらに深い文章表現につながることや特に低学年においては、文字が完成するまでのプロセスを把握させておくことを確認することができました。学級内の個人差を埋める手立てを授業にどう仕組んでいくのかについて、さらに考えていきたいと思えます。

10月26日（土）の研究発表大会を終えても研究は続きます。時間を有効に使うために、共同研究者とインターネットを利用したWeb会議で話合うことも少なくありません。写真（下）は、米子医学部の先生との会議の様子です。



研究日 ネット会議の様子

次号から、研究発表大会（10月26日実施）の様子を順次お知らせします。